

— 続報 — 埼玉県における“くらりか”の展開

くらりか副代表 埼玉県担当 S37年機械 利根川宏

盛夏号p56～57に続き、埼玉県における展開について紹介いたします。

埼玉県内での“くらりか”教室は東京、神奈川に較べ約3年遅れて2007年度：1教室で始まり、2008年度：46教室、2009年度：91教室と増加してきました。これは東京、神奈川の先輩方の教材と教室開催のノウハウ活用の賜物です。一方で埼玉県独自の事情を克服する必要がありました。

(1) 蔵前会員が少ない—地元協力者の活用

埼玉県の蔵前工業会会員数は東京に比べ1/5、神奈川に比べ1/4程度で、それだけ“くらりか”の会員が集め難くなっています。これは“くらりか”を全国展開する際の共通な課題といえるでしょう。

現在、埼玉県内の教室開催地区は、①東武伊勢崎線沿線②JR高崎線沿線③東武東上線沿線、の3つの鉄道沿線地域となります。

①の中で春日部市、②の中で蕨市、③の中で川島町、東松山市では講師・助手を補強する為、“くらりか”会員と地元の協力者の参加を得て“くらりか”教室を開催する方法の他、“くらりか”とは別に元の職場の仲間によるローカルグループを設立し、独立して教室を開催する方法も導入しております。

(2) ローカルグループ—くらりか教材の相互利用の覚書

教材をゼロから開発することは大変なエネルギーが必要で、既に開発されている“くらりか”の教材の利用が前提となります。従って、“くらりか”との間で教材の使用許諾と、改良点に関する相互利用の覚え書を取り交わすことを念頭に置き“くらりか会員”が中心となって試行が始まっております。

今後、ローカルグループでの会員の経験と問題意識の向上により、教材の改良・新規提案に繋がって行くものと期待しています。

(3) 参加児童数の増加—最終目的の達成

いくら素晴らしい教材が開発されていても、教

室開催を多くし、児童の参加数を増やさなければ「理科嫌い」を少しで



ボンボン蒸気船の教室風景

も少なくするという“くらりか”本来の目的が達せられません。この観点からも、ローカルグループによる“くらりか”教室の開催は重要な方策の1つと考えています。

(4) 技術の伝承—地理的条件

しかし全国的に考えれば埼玉は寧ろ恵まれているのかも知れません。埼玉県は東京、神奈川に隣接していますので、首都圏での一体運営に参加し易くなっています。教材や教室運営の伝承を対面で伝達でき、教室、講師・助手の相互交流体験を重ねる上で、地理的に恵まれております。

(5) 蔵前工業会埼玉県支部との連携

現在の県支部の常任幹事・監事の11名のうち5名が“くらりか”会員です。県支部より支援金を頂いていますが、“くらりか”のPRと会員の勧誘の為、昨年に続き新年会の席上で「くらりかの時間」を頂き、参加者全員が「浮沈子」「ギンギンプロペラ」を作成し、お孫さんへのお土産として持ち帰り頂きました。

やはり子供は動くものが好きなようです。特に自分で制作したものを動かすのは楽しいようで、ボンボン蒸気船教室を開催した際には児童センターの職員の方も、「こんなにはしゃいでいることはあまりないですよ」と言っていました。水槽の後片付け等も子供達が手伝ってくれました。

蔵前工業会にとって素晴らしい活動ですので、今後更に広い地域で“くらりか”教室が展開されることが望まれます。